

地域社会との緊密な連携を築く

## 地域と連携し、子どもの成長を支援するPTA活動

豊明市立栄小学校PTA

### 1 はじめに

本校は、開校52年目を迎える、児童数599人、学級数21（特別支援学級3）の規模の小学校である。校訓「よくかんがえ、ゆたかに、たくましく」の精神のもと、温かい教職員集団で温かい子どもを育てることを経営方針に教育活動を展開している。

校区は豊明市の南西に位置し、名古屋市緑区と隣接している。旧東海道が通る歴史ある地域で、学区には桶狭間古戦場伝承地の史跡がある。地域とのつながりが深く、登下校時の見守りボランティア、学校の木々の剪定等でお世話になっている。また、保護者が本校卒業生という方が多く、学校に対して協力的である。



【栄小学校 校訓碑と校舎】

### 2 研究への取組

#### (1) 研究のねらい

本校PTAは、以前から登下校の見守り活動や運動会、持久走大会等の学校行事の手伝いなど積極的に活動してきた。しかし、共働きの家庭が徐々に増え、生活様式や考え方が多様になってきた。PTA活動への参加に負担を感じるという意見や、委員の選出に苦勞するといった声が聞かれるようになり、活動の見直しを迫られている。さらに、長引くコロナ禍のため、新しい生活様式、新しい学校行事の方法に合わせた活動の仕方を探っている。

そこで、保護者が負担を感じずに、児童のためになる活動を精選することを行った。そして、地域との結びつきをより強化し、お世話になっている地域の皆さんに感謝できる心を育てる実践をしたいと考えた。

#### (2) PTAの組織

PTA委員28名は、会長・副会長・書記・会計からなる「役員」と各部会の部長を務める「理事」、その他の「委員」で構成されている。会長以外の27名は、成人部・校外生活指導部・保健厚生部・広報部のいずれかの部会に所属している。この他に在校生の保護者に限らずOBも多数入会している各種サークルがあり、熱心に活動している。

### 3 実践活動の概要

#### (1) さか絵ほんサークルによる読み聞かせ

本校 P T A には、さか絵ほんサークル・花ボラ・フラワーアレンジメント部・書道部・バレーボール部の 5 つのサークルが活動している。この中で児童と最も密接な関係があるのがさか絵ほんサークルである。このサークルにより、毎月 1 回、絵本の読み聞かせをしてもらうことが児童の楽しみの一つであり、児童と P T A が交流し、情操を育てるよい機会となっていた。令和 2・3 年度は活動休止を余儀なくされたが、4 年度から活動を再開させることができた。2 年間活動できなかった分、読む方も聞く方も喜びはひとしおであった。



【読み聞かせの様子】

#### (2) 花ボラによる環境整備

本校正門を入ったすぐのところに特徴的な円形花壇がある。この花壇の整備を中心に花ボラが活躍している。最近では、委員会の時間や大放課の時間に活動時間を合わせ、本校の園芸委員と協同で土作りや苗植えの活動を行っている。児童や教職員は花ボラの方から、専門的な指導を受けることで花を育てる技術が向上している。肥料がよいため雑草がものすごい勢いで生えてくるが、毎朝、園芸委員の児童が草取りを行って、花ボラの皆さんと植えた花を守っている。お客様からの「花壇がきれいですね」という言葉を児童に伝えることで児童のモチベーションを保っている。



【花ボラと園芸委員】

#### (3) P T A 登下校指導（ちょこっと美化活動）

本校は、毎日、大勢の見守りボランティア（地域のお年寄りが中心となって組織されている）が登下校時に児童の安全を守ってくださっている。P T A 委員も定期的に登下校指導を行っている。そのときに、地域の見守りボランティアの方に挨拶できるように声をかけてもらっている。また、P T A 委員が提出する報告用紙に書かれた内容は、通学団会で指導している。

数年ほど前まで、P T A 活動として、地域の公園等の清掃をする親子

美化活動を行っていた。現在この活動は割愛されているが、地域住民からこの活動を望む声が上がったため、PTA委員会で話し合った結果、「ちょっと美化活動」を行うことになった。この活動は、登下校指導の際、PTA委員が通学路のゴミを拾う活動で、自主的に一緒にゴミを拾い始める児童が現れるなど、児童の公共心を育てる一助となっている。



【PTA登校指導の様子】

(4) 子ども110番の家への訪問

夏休みに子ども110番の家を訪問し、看板等の劣化の確認、継続の意思確認等を行っている。この活動は親子で行い、子ども110番の家に協力していただいていることに対して、児童が直接お礼の気持ちを伝えることを大切にしている。

コロナ禍では、家庭への直接訪問はお互いの安全のため、控えた方がよいという意見が市内から上がったため、継続の意思確認は市内一斉で郵送により行い、PTA委員は家の位置確認と看板の劣化確認のみを行った。

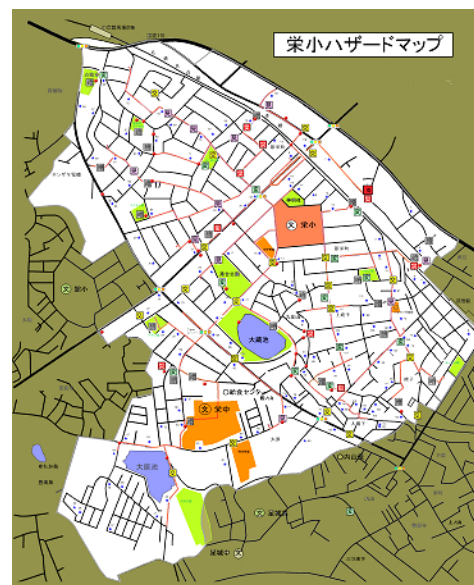


【子ども110番の家訪問】

(5) 長期休業中の親子パトロール

地区内、自宅の周辺を親子で巡回し、地域の方に挨拶をしたり、遊んでいる子どもたちに声をかけたりして、明るい地域づくりの一助としている。

また、「栄小ハザードマップ」を確認しながら、犯罪が発生しやすい「入りやすく見にくい」場所、交通事故、水難事故、地震による崩落等、児童の命に関わる危険な場所を親子で探ることが、児童の危険予知能力を高めることに繋がっている。発見した危険箇所については、PTA委員が登下校指導の際に、直接通学団の児童に伝えたり、通学団会で担当教師が指導したりしている。



【栄小ハザードマップ】

#### (6) 感謝の会

毎年2月に4年生が中心となって企画運営をして、お世話になった方に感謝の気持ちを伝える「感謝の会」を行っている。例年、地域の方100名以上に招待状を送り、盛大に会を行っている。PTA委員は、控室での接待をし、PTA会長は、会の中で保護者代表として感謝の意を伝えている。



【感謝の会（オンライン）】

残念ながら、2年度は感謝の手紙とプレゼントの送付のみとなった。3年度はゲストをボランティアの中心となっている数名に絞って、オンラインで会を催すことができた。オンラインでの実施では、全校児童の心が一つとなり、感謝の気持ちが芽生えるのかやや心配したが、ゲストお一人お一人、PTA会長が大変心温まるお話をしてくださり、感動的な会となった。

#### 4 おわりに

PTA、地域ボランティアによる学校支援が持続可能なものにするには、特定の団体に過度な負担がかからないようにすることが大切である。例えば、本校の見守りボランティアに登録している方は、多くが高齢者である。今後、ボランティアさんがリタイヤしたときに、PTAにその役割を義務化するなどすれば、PTA委員を敬遠する傾向に拍車がかかってしまうことが予想される。本校では、豊明市が推奨している「ながら見守り」（子どもの登下校時間に合わせて、散歩・買い物・花の水やり等をしてもらう）、「ちょいそこお迎え」（お子さんが家につく少し前に、ちょっとそこまでお迎えをし、お子さんとお話ししながら一緒に帰ってもらう）を勧めている。

また、本校は地域の方々の多大な支援をいただいている学校である。この結びつきが継続できるよう、学校でつくった俳句等の作品を地区の作品展に貸し出すなど、地域行事への協力を続けていきたい。このような小さな積み重ねが、地域の皆様一人一人の子どもを知ってもらい、地域の宝である子どもたちを地域で育てることにつながると考えている。



【栄小公式キャラクター さかえぞう】